

ほんじまこう

本島港（丸亀市管理地方港湾）

本島港は、丸亀港北方 11km の沖合に浮かぶ塩飽諸島の中心である本島に位置し、島の玄関港として重要な役割を果たしています。

本島は古くには塩飽水軍の本拠地として栄え、当時から海上交通の拠点でした。織田・豊臣氏より朱印状を授かり、そのすぐれた操船技術は徳川幕府の御用船方をつとめたほか 1860 年には、日本人として初めて太平洋を渡った威臨丸の乗組員として 35 名の塩飽衆の活躍があったことでも知られています。

泊地区にある塩飽の島々の政務を司った「塩飽勤番所」跡は国の史跡として、笠島地区にある切妻造、出格子、窓格子を特徴とする「町屋形式」の建物は、国の伝統的建造物群にそれぞれ指定されており、現在では眼前に広がる瀬戸大橋の風景とともに多数の観光客が訪れています。

本島港の本格的な整備は、昭和 39 年から始まり、昭和 46 年にフェリー岸壁が完成、その後小型船対策事業など数次の整備を経た後、平成 14 年に貨物船等の対策事業が完成し現在に至っています。丸亀～本島間を結ぶフェリー一便、丸亀～牛島～本島間および本島～児島間に旅客船が就航している他、地元漁船、診療船、貨物船、観光船など多くの船舶が利用しています。

